

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課

担当課長名：荒瀬 美和

事業の概要

事業名	スマートICアクセス 市道(仮称)スマートインター1号線	事業区分	地方道	事業主体	天童市
起終点	自：山形県天童市大字高掬 至：山形県天童市大字高掬	延長	0.7 km		
事業概要	市道(仮称)スマートインター1号線は、現在整備予定の(仮称)天童南スマートインターチェンジのアクセス道路として、利便性向上による物流の効率化や緊急搬送時間短縮、観光振興を目的するものである。				
事業の目的、必要性	市道(仮称)スマートインター1号線を整備することにより、東北中央自動車道へのアクセス性向上により市南部の工業団地からの運送時間短縮や生産性向上が期待されるとともに、(仮称)天童南スマートインターチェンジを活用した新たな観光周遊ルートの形成も期待されており、交流人口の拡大に資する事業である。				
全体事業費	約3.8億円	計画交通量	約5,800台/日		
事業概要図					
関係する地方公共団体等の意見	地元住民、付近の工業団地関係者や温泉組合関係者などから早期事業完成が要望されている。				

学識経験者等の第三者委員会の意見	新規事業化は妥当である。
------------------	--------------

事業採択の前提条件	費用対便益：便益が費用を上回っている。 令和2年度より(仮称)天童南スマートインターチェンジが事業化。
-----------	--

事業評価結果

費用対便益	B/C	8.5	総費用：3.1億円 事業費：2.9億円 維持管理費：0.11億円	総便益：26億円 走行時間短縮便益：23億円 走行経費減少便益：2.4億円 交通事故減少便益：0.50億円	基準年：令和2年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 9.2(交通量 +10%)	B/C= 7.5(交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C= 7.6(事業費変動 +10%)	B/C= 9.3(事業費変動 -10%)		
	事業期間変動	B/C= 7.0(事業期間変動 +20%)	B/C= 10.5(事業期間変動 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	当該路線の整備により、朝・夕のピーク時に通過交通等で混雑する(市)矢野目高掬線で800台/日、(市)清池南小畑線で1,300台/日が転換する事で、混雑が緩和。		
		事故対策	◎	当該道路の整備により、(県)長岡中山線で600台/日の交通量の減少が見込まれるため、高掬小学校付近の横断歩道における歩行者の安全性向上が期待される。		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	新市街地として整備中の芳賀タウンへのアクセス向上により定住人口の拡大が期待される。		
		地域経済	◎	天童南部地域の工業団地から高速道路へのアクセスが強化され、物流の効率化が図られ生産性の向上が期待される。		
		災害	◎	緊急輸送道路である東北中央自動車道へのアクセス向上、および(仮称)天童スマートインターチェンジが最上川の洪水時浸水想定区域外に位置することから、災害時の避難・救助を始め物資供給等の応急活動への寄与が期待される。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	各観光資源へのアクセス時間の短縮や高速道路を活用した周遊ルートの形成が実現することにより、交流人口の拡大が期待される。			
事業実施環境	○	東北中央自動車道との連結許可(R2.10.16) 地元住民、付近の工業団地関係者や温泉組合関係者などから早期事業完成が要望されている。				

採択の理由

事業主体である天童市が実施した評価に基づけば、費用便益比が8.5と便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、高速道路へのアクセス性向上による地域経済の活性化や新たな周遊観光ルートの形成による交流人口の拡大が期待されることから、当該事業の整備の必要性は高いものと判断される。  
以上により、本事業は、令和3年度新規事業化箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。